



川村優紀子
副看護師長

じて医療の質の向上につな
げたい考えた。
チームは、医師の手順書
に示された範囲内で医療行

やまなし
医療最前線
看護のいま
県立中央病院から

〈303〉

山梨県立中央病院 重症化予防
チームへの相談件数の推移



ぐ。
例えば不整脈が頻発す
る事例では、排便時に力
むことで心臓に負担がか
かっていたことが判明。食
生活の改善や便を軟らかく
する薬の利用を提案した。
呼吸が苦しい患者の場合
は、呼吸をするために使
う筋肉の緊張を和らげる
ため、首回りのマッサージ

6月の6件に比べ、相談件
数は伸びている。チームを
率いる川村優紀子副看護師
長は「患者の睡眠や食事、
清潔感、排せつの様子など
の変化に着目している」と
説明。「高齢化に伴い、心
や体にさまざまな病気を複
合的に抱えている人は多
い。今後チームの必要性
は高まっていくと思う」と

「看護のいま」では、山
梨県立中央病院で働く看護
職員の最新の取り組みを紹
介する。
Ⅱ第2、4火曜日に掲載し
ます。

重症化予防チームで 専門性生かし質の向上を

山梨県立中央病院は、卓
越した専門性を持つ看護師
が職員からの相談に応じる
「重症化予防チーム」を設
けている。チーム医療を通

為をする「特定行為」がで
きる看護職員のほか、専門
性を磨いた認定看護師や専
門看護師など24人で構成さ
れている。病棟看護師が症
例を検討するに当たり、よ

り専門的な知見が必要な場
合にチームに相談できる。
チームのメンバーは患者の
症状を見極め、一人一人に
合った看護ケアを提案する

を取り入れた。このほか、
自分で痰を出せない患者へ
のケアにも取り組んでき
た。
10月の相談件数は23件。
チームが本格稼働し始めた